アルゴ参番館

デイを地域の拠点に 住民参加の事例検討会も

医療・介護事業を展開するホームコム（本社＝埼玉県朝霞市）は今年2月に東久留米市の滝山団地内の商店街の一角に、同社3カ所目の地域密着型デイサービス「アルゴ参番館」を開設した。単なる介護保険のデイではなく、高齢化した地域の拠点になることを目指している。

赤星社長

高齢化率は50％超という滝山団地。その団地の商店街の空き店舗を改修して開設したのがアルゴ参番館だ。その日参加する利用者が昼食のメニューを決め、商店街のスーパーに買い物へ。自ら調理をしてみんなで昼食を取る――そんな生活リハビリのプログラムを提供している。介護報酬改定による提供時間の変更はあったが、事業収入に大きな変動はなし。開設から3カ月で定員がいっぱいになるなど滑り出しは順調だ。

このデイでは商店街に面したスペースに、近隣にはあまりなかった喫茶コーナーを併設した。お昼近くになると、喫茶スペースに団地の住民などがやってくる。コーヒーは100円、カレーは300円。デイとの境界には雑誌スタンドがいくつか置かれているだけ。来店者はデイサービスで利用者たちが昼食を作るのを眺めながら世間話に花を咲かせる。

デイと喫茶店が併設したフロア。地域住民との交流も

市内に3カ所ある地域包括支援センターはすべて社会福祉法人への委託で特養併設型。「なかなか相談に行きづらい」という声も聞かれていた。

「お茶を飲みに行ったついでにちょっと介護のことを聞ける、そんな風に地域の方々に利用してもらえる場にしたいと考えました」と赤星良平社長は話す。

市内の元気高齢者の活躍の場にもなっている。この日喫茶コーナーのウエイトレスをしていたのは60代のOさん。市内の介護事業所で地域の高齢者を受け入れて介護ボランティアとして養成する「元気高齢者地域活躍推進事業」の修了生。週に数日アルゴで働いている。喫茶を利用した地域住民の中には、スタッフがデイの送迎に出ている間に、フロアの掃除をほぼ毎日してくれる人も。

「市事業の修了者のほかに、住民のボランティアを組織して、団地に暮らす高齢者の御用聞きをしたり、商店街でのボランティア活動を通じたポイント制度が作れないかと考えています」（赤星社長）

先月には、デイが終わった後の事業所で、商店街の会長や団地の自治会員、会社経営者なども呼んでの事例検討会を開いた。「専門職にはない視点での意見も出ました。身近に支援の必要な高齢者がいることも感じとってもらえたと思います。今後も続けていきたい」

「デイだけやっていればいい時代は終わった」と赤星社長。「加算や制度対応の前に、その地域で何が求められているかを考え実践していけば、事業としても成り立つのではないでしょうか」。

超高齢化団地の中の活気ある商店街。利用者達は自分たちで昼食の買物に行く